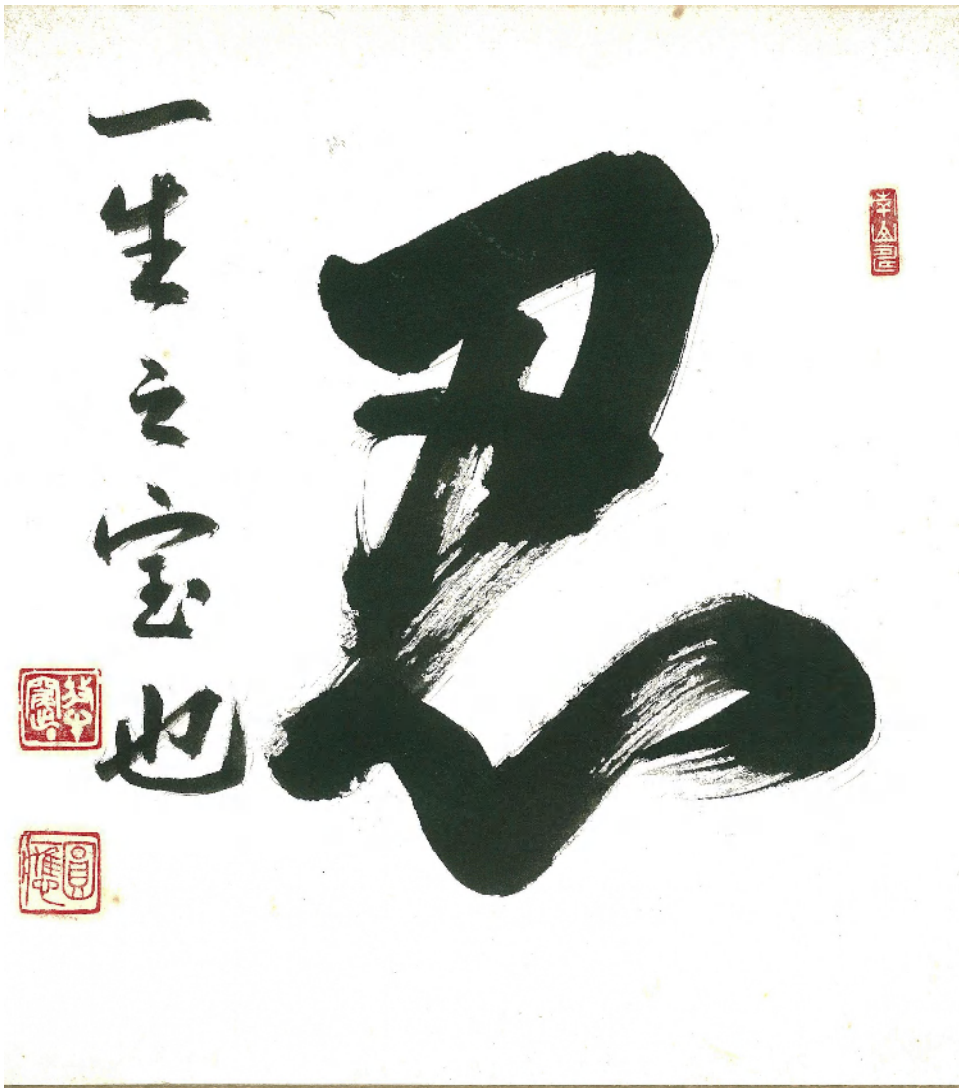


圓福寺報



「忍は一生の宝なり」

放生窟 圓應

圓福寺報 第六十六号
 平成二十六年七月十五日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一
<http://www.chiba-empukuji.com>
 E-mail: oshou@chiba-empukuji.com

この色紙は、平林寺専門道場に入門して、初めていただいた墨跡です。

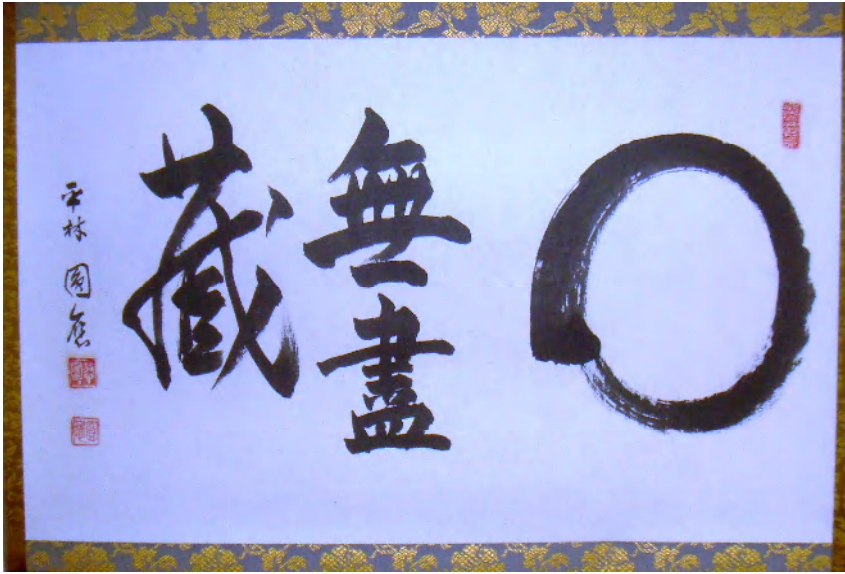
目次	
目次	頁
「平林寺放生窟老大師追悼 ——誌上墨跡展」	2
竜波禪士垂示式 鎌ヶ谷 高橋 敏勝さん 源町 梁川 律子さん	4
竜波和尚退山	7
二順目第十三回 「四国あるき遍路の旅」	8
第十四回四国あるき遍路のご案内	15
連載「続・寺から半里」 園生町 熊倉 浩さん	16
寺の事件簿 第三十八回花園会ゴルフ大会	21
平成二十五年度花園会会計報告	21
お寺と和尚の日録抄	22
六川花園幼稚園 園だよりから 「三日見ぬ間の・・・」	23
地藏盆のご案内	24

平林寺

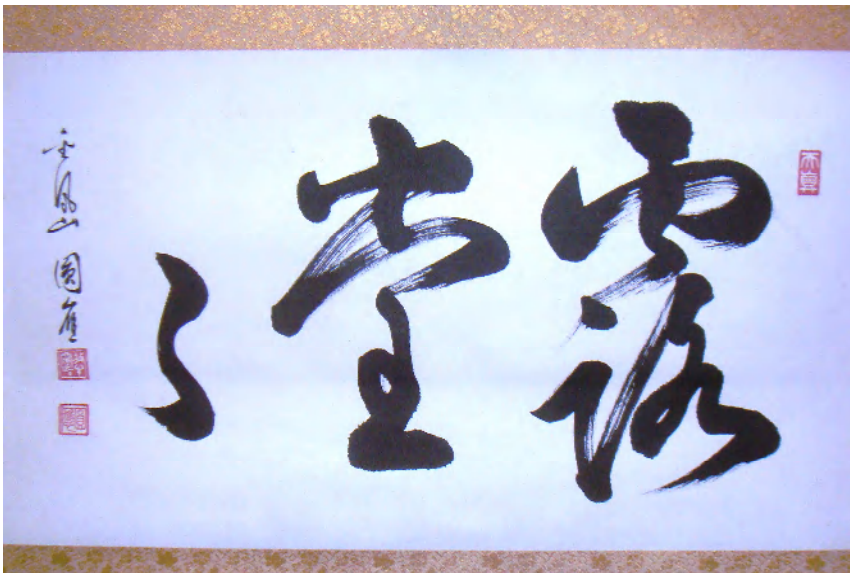
放牛窟系原圓應老大師追悼

誌上墨跡展

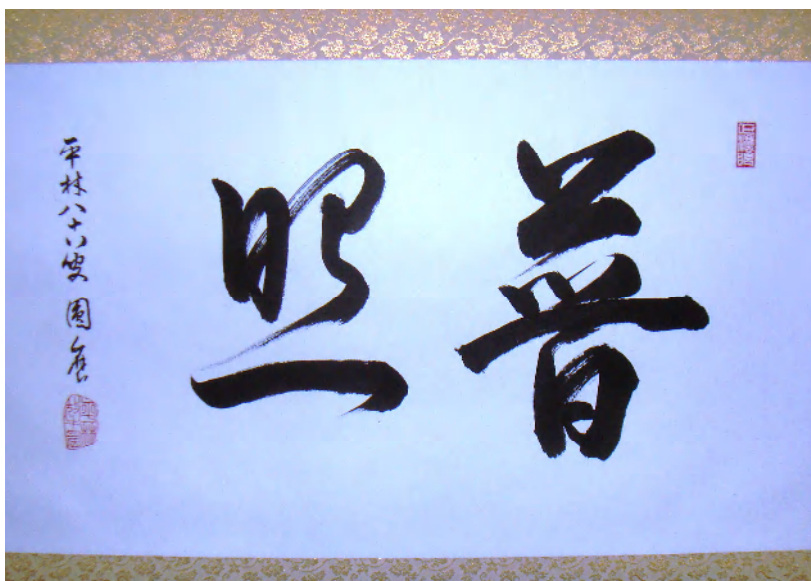
住職の修行時代の師、平林寺の放牛窟老大師が五月に亡くなられました。入寺式・涅槃精舎落慶・耕雲寺梵鐘の銘など、言い尽くせないほどお世話になりました。ここに甚深なる追悼の意を込めて、墨跡の一部をご紹介します。合掌。



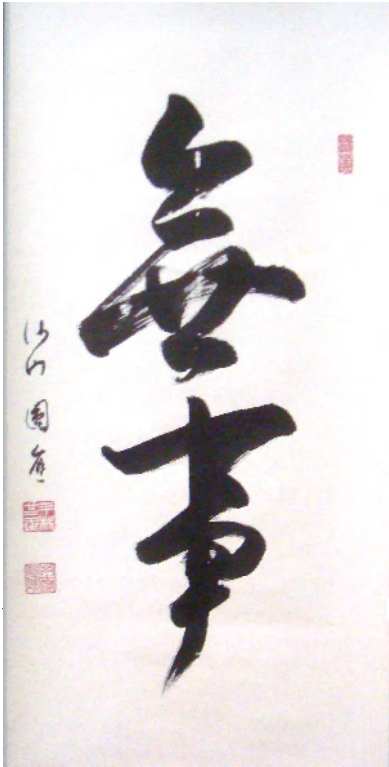
「円相 無盡蔵」(むじんざう)



「露室々」(るびゅうびゅう)



「普照」(ふしょう)・・・米寿のお祝いでいただく

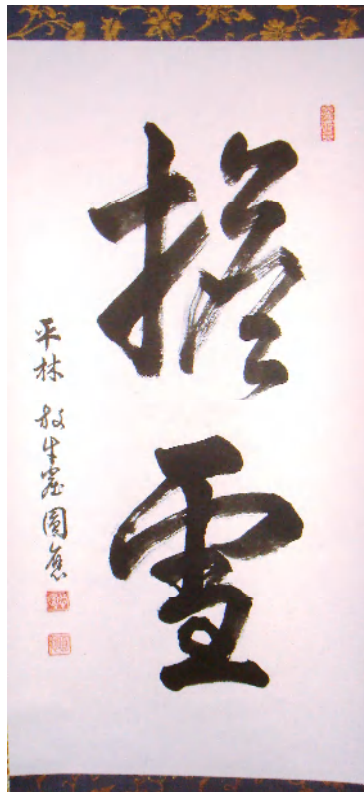


「無事」(むじ)

「虚心」(こしん)



「擔雪」(たんせつ)



ほうぎやうくつ えんのう
放牛窟糸原圓應老大師

大正十五年島根県生。昭和十四年神戸市正法寺にて出家得度。昭和二十二年神戸祥福寺専門道場、その後、昭和二十五年平林寺専門道場にてご修行。昭和五十年平林寺専門道場師家にご就任。修行専一にして、幾多の禅僧を鍛えられる。圓福寺住職もその一人。平成二十六年五月二十二日遷化。世壽八十九歳。



「獨坐大雄峰」(どくざだいゆうほう)

竜波禅士

妙心寺垂示式

平成二十六年四月十二日(土)

於 大本山妙心寺

すいじしき

ねがはくは花のしたにて春死なん

そのきさらぎの望月の頃

鎌ヶ谷 高橋 敏勝

西行法師の歌ですが、きさらぎ月はどうやら現在の四月の始めころになるようです。

今年の四月の望月・・・つまり満月は四月十五日でした。幾分桜はもう遅いだろうと京都へ来てみたら、枝垂桜や花桃がまさに花盛り、西行の花の下にて死んでしまっても良いかもなと、思えるほどの春爛漫の中、竜波禅士の垂示式は本山妙心寺

の法堂にて厳かに執り行われしました。

四月十二日(土)朝八時、晴れ、京都の気温はたぶん十一度くらい。凜とした引き締まった雰囲気。妙心寺法堂。圓福寺よりは和尚さん、奥様ほか花園会の役員など計十四名、さらに竜波禅士の父君である、節孝和尚と奥様、さらに竜波禅士のお姉さん一家が立ち会う中行われま



した。

垂示式とは、今まで小僧さんであった禅僧がその人の本質の人格を確認しその派の法門に帰依する事によりそれを認めてもらい本物の和尚、つまり禅師となる事を意味する関門の式であります。簡単に言わせてもらえば、今までは竜波禅士でありましたが、明日からは竜波禅師となり、和尚とされる訳です。すなわち、大衆(大勢の人達)に仏の教えを垂れ示す事が可能な和尚と認めてもらう儀式なのです。

今回の垂示式は、妙心寺開山、関山慧玄(かんざんえげん)禅師の月命日に行われまし



開山忌の行導の様子（妙心寺法堂）

た。（正月命日は十二月十二日です。）この開山忌には、妙心寺派管長様始め僧堂老師、塔頭（たっちゅう）の師家、その他雲水など総勢四十名近くの臨済僧が集まり、執り行われました。

しかし、後で気が付きますが、垂示式の時には沢山居た和尚達は徐々に退堂し数名の和尚方執り行われました。不思議に思いよくよく考える程にこれは、僧達の『陰徳』のような気がします。わざとらしく大人数でにぎやかにこれ見よがしに執り行うでなく、大勢に見守られなくても、途中で退堂されたのでは、お礼の礼拝すりゃ出来ませぬ。新参者にそのような要らぬ気遣いをさせず、さりとして、この者が和尚の末席に列するのだと、さらりと紹介する。そうした気遣いの在る儀式のような気もしました。表面だけ捉えるのと、まるで『ついで』にやるようなものなのですが、実はもう少し深い思いやりがそこにはあるのだと、私は感じました。

さて、その垂示式ですが、開山忌に引き続き竜波禅士が進み出て、六人の僧侶と対峙します。つまり、竜波禅士がその六人と禅問答の応酬するのです。それは、小生の五m前で展開されました。しかし、竜波禅士、何を話しているのか聞こえませぬ。もごもごと、まるで口籠るごとくです。竜波禅士の禅語に続き、雲水が見解（けんげ）を述べているのですが、それも聞こえませぬ。やはり、もごもごと、口籠って問答を返してません。どうやらこれが妙心寺垂示式の禅問答の作法のようです。同じ臨済宗でも各派にそれぞれ家風と言うものがあるので、これが私達の妙心寺の家風なのでしょう。そうして、小声での問答は六人に対し繰り返されました。

問答が終わると、竜波禅士は仏殿中央へ進み、五体投地の礼拝を開山様に対して行います。開山忌で、管長様が床にござを敷いて礼拝したのに、竜波禅士は布一枚で五体投地を繰り返します。まさに、禅僧の意気込み・・・圓福和尚流に言うのなら、性根を感じる光景です。

その後、『職状』の授与を賜り、これで初めて『和尚』とな



六人の僧との問答の様子（妙心寺法堂）

りました。実におめでとうござ
います。
その後一同解散となり、我々
は妙心寺内に在る、圓福寺が本
山へ上った時に宿泊等のご厄介
になる、東海派の老家寺である
『智勝院』さまに寄ります。暖
かさを感じるお迎えをしていた
だき、書院へ通されます。玄関

には、香木の線香が焚かれてい
ました。また、書院には一輪の
茶花が。
緋毛氈が書院の左右に敷か
れ、一同着座してしばらくする
と、竜波和尚が、智勝和尚に導
かれ書院の庭側の廊下に現れ、
一同に挨拶をされました。
「時、正に・・・
そのきさらぎの望月の頃」

垂示式に参加して

源町 梁川 律子

平成二十六年四月十二日朝、
清々しく掃き清められた妙心寺
の法堂の近くに、竜波さんの門
出を間近で祝おうと、和尚さ
ん、尚美さん、役員さん、檀家
の人も集まりました。
春の穏やかな日差しにあふ
れ、ほっとする中、やさしく吹
く風に気持ちちが引き締めま
ります。
法堂の扉はすべて開かれ、儀

式は執り行われました。
妙心寺の管長さまをはじめ、
五十人以上いらしたでしょう、
和尚様たちが狩野探幽の筆
による雲竜図の下、列をなして
お経を読みながら歩かれる様
は、圧巻でした。

垂示とは、教えを説くこと。
そして、垂示式とは、妙心寺の
開山様の前で法脈を受け継ぐ儀
式で、六人の和尚さんに法を受
け継げるかどうか問われ、竜波
さんは禅の言葉で答え、ふさわ
しいかどうかのやり取りをな
されたそうです。

竜波さんが何と言われたのか
とても集中して聞いていたので
すが、ボソボソと本当に小さな
声なので聞き取れませんでした。
後から、一部を教えてもらい
ました。

「竹に上下の節あり」
めいれきれきろどうどう
「明歴々露堂々」
と、いつでもはつきり区別があ

ること、素直に生きることが意味しているそうです。

対馬から見えたご両親と、京都にお住いのお姉さまご夫婦と利発な甥御さんに見守られる中、式は無事に終了しました。

その後、妙心寺の中にある智勝院さまで茶礼(されい)をいただきました。圓福寺は、智勝院の末寺で、竜波さんは垂示式にあたって、お世話をしていただいたそうです。智勝院さまの奥さまは竜波さんと同じ対馬のご出身ということで、やはり縁というものはあるのだなと感じました。

昼食の後、竜波さんが大学時代小僧としてお世話になっていた竜安寺を、事務長さんに特別に案内していただきました。

山門をくぐって坂を登って行くで見事なだけ桜がまきに見ごろで、大勢の観光客が写真を撮っていました。

「吾唯足知」(われただたる



「吾唯足知」のつくばい

をしる)のつくばいを模したお菓子と抹茶をいただきました。

十五個の石を配した有名な石庭、タイのヒノキでつくられた仏殿、茶室「蔵六庵」、中庭の侘助ツバキ、広大なそして丁寧に整えられた非公開の奥庭まで、事務長さんに情熱的に説明していただきました。

垂示式に、一般の檀信徒が参列させていただいたり、お寺で茶礼(されい)をいただいたりするすることは、なかなかないことだそうです。今回、このような貴重な体験をさせていただくことができ、本当に感謝しております。

竜波和尚退山！

前記記事の通り、竜波和尚は本山にて無事垂示式を終え、副住職の辞令を交付していただきました。

いよいよ副住職として、住職の補佐並びに市原別院耕雲寺での布教教化・護持運営に力を発揮することと期待しておりますが、六月はじめ、期するところありとのことで、再行脚(再修行)を決意し、圓福寺を後にいたしました。

一昨年八月の入寺以来、檀信徒の皆様にはご法愛をいただき、本人に代わり、心より御礼申し上げます。

それに引き替え、住職として、副住職そして一人前の僧侶として育てることができず、不徳の致すところと慙愧いたしております。檀信徒の皆様には、心よりお詫び申し上げます。

再び住職一人となりましたが、役員様はじめ、寺庭・学徒とともに、旧にも増して、圓福寺・耕雲寺の興隆護持に努めてまいりたいと存じます。今後とも、ご法愛のほどお願い致します。右、ご報告とお詫び申し上げます。

圓福寺住職

宮田 宗格 九拜



2 巡目第13回

四国あるき遍路の旅

平成26年2月21日（金）～23日（日）

やぶをかき分け、登り道。

森の中では、残雪の道。

瀬戸内眺めて、下り道。

（参加者に配布している写真集の抜粋です。）

高松空港から空港リムジンで琴平。琴平から善通寺駅まで移動して、いよいよ今回の遍路は、大本山善通寺から始まりました。

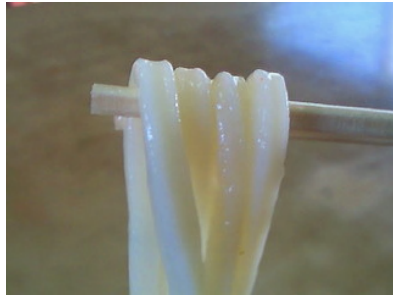
弘法大師が発願がかなうかどうか確かめるために身を投げたという捨身ヶ嶽。谷に身を投ずるのも容易ではないでしょうが、山に登るのも今回は容易ではありませんでした。捨身ヶ嶽へもそうでしたが、五色台への登りもです。おそらく、もうさほどきつい登りはないでしょう、と言った住職を恨んでいる人も一人や二人ではなさそうな気がします。

そのかわりといっているんですが、2泊とも大きなお風呂だったこと、宿の送迎バスのおかげで、少し楽ができたこと、讃岐うどんを3回も食べられたことで許していただけだと思います。

- 七十五番 善通寺
- 七十三番 出釈迦寺
- 七十二番 曼荼羅寺
- 七十一番 弥谷寺
- 七十四番 甲山寺
- 七十六番 金倉寺
- 七十七番 道隆寺
- 七十八番 郷照寺
- 七十九番 高照院
- 八十一番 白峯寺
- 八十番 国分寺
- 八十二番 根香寺
- 八十三番 一宮寺

以上十三ヶ寺を巡拝しました。お参りした順番なので、番号順ではありません。

待望の讃岐うどん



飛行機で四国に着いて、バスで琴平に行つて、善通寺をお参りして、讃岐うどんを食べ・・・と聞いたから、四国の観光ツアーと勘違いされそうですが、善通寺をお参りした

ら、ちようどお昼の時間となりました。いくつか調べたのですが、お目当てのところはまだ休みだったら皆さんの落胆が大きいので、今度は電話で確認しました。すると定休日とのこと、これからの登りを考えたら近くがなによりと思ひ直し、善通寺駐車場から出たところの「大師うどん、きむら」さんで、待望の讃岐うどんを昼食となりました。

そば通は、打ち立て、ゆで立てのそばが出てくるまで、熱燗を飲みながら待つのだといひます。讃岐うどんも、釜揚げなどを注文したら、茹でるのに十五分ほどかかります。そばなら熱燗ですが、讃岐うどんでは、ゆであがり待つか、おでんやいなりずしを食べ待つかのさうです。そこで、うどん

やさんには、棚におにぎりやいなりずし、ちらしずしが置いてありますし、おでん鍋も置かれてあります。そこから自由に取って、食べるようになってくるのです。そういえば、最近のコンビニもレジのそばにおでん鍋が置いてあって、自分で器に入れて、レジでお会計するようになっていますが、もしかしたら讃岐うどんの店を参考にしたのかもしれない。腹ごしらえをしたなら、観光ツアーではない歩き遍路の始まりです。



【大師うどん きむら】 善通寺市善通寺町1059-3 TEL0877-62-5610

逆もまた険なり

今回の道順は、七十五番善通寺からのため、七十一番まで逆打ちとなります。善通寺裏の我拝師山の北側を歩けばいいものを、その南側を歩くルートをとりました。というのも、一巡目で七十三番から仰ぎ見た奥の院「捨身ヶ嶽禅定」をお参りしたかつたからです。一巡目では、道下さんが一人そこまでお参りに行ってきたのをうらやましく思っていたのです。とはいへ、七十三番からの登りのきつさは想像できませんでしたから、裏にあたる南側から登れば少しは楽だろうと考えたのでした。

讃岐うどんを腹を満たし、小春日和の中を歩きます。なにしろ、山の南側ですから、日差しもたつぷりです。歩き遍路を未経験の人が想像する、歩き



急傾斜の道なきところを登る。

遍路の風情そのものでした。
 それも四キロほどのことだったでしょう。か、我拝師山の西側から登り始めると、逆打ちの悲しさで道しるべがありませんし、遍路地図もあてにならなくなりました。

どうきようむに
「同行無二」

畦道を通ったり、畑の中を突っ切ったりして、なんとか捨身ヶ嶽禅定の「有岡参拝道入口」に辿りつきました。どうやら方向性は間違っていないかったようです。

その入口から山に入っていくと、次第に道が怪しくなってきました。イノシシの足跡や泥浴びをする場所を越して、野ばらをかき分けて進むと、小さな尾根の上でましました。そこまでは道らしき感じがありました。そこから



尾根伝いに行きたいものの、道は消えてしまっています。それでも木が光を遮るのでしよう、下草が生えていなくて、なんとか登ることができそうです。木につかまりながら、イノシシのけもの道を頼りに、我拝師山西側の鞍部（稜線のくぼんだ所）をめざします。余りの急傾斜に、立ち止まると自分が垂直に立っているのかどうかさえ怪しくなるほどです。

歩きながら思いました。今年は四国霊場開創一二〇〇年だと言います。開

創される前は当然へんろ道などなく、弘法大師が歩いてから八十八か所ができたと言われますが、おそらくお大師さんが四国の山々を歩き回って修行をされたところは、こんな道なき道を歩いていたのだろうと・・・すると、私たちはお大師さんと同じような山歩きをしているわけで、よく「同行無二」というのではないかと気づきました。

見上げれば、葉の落ちた木々の間から青空が見えるので、それをめざしていくと、右手の方に老夫婦が歩いているではありませんか。山から捨身した弘法大師を救ったのはお釈迦様と天女だったと言いますが、その老夫婦はもしかしたら、道に迷った私たちを救ってくれたお釈迦様と天女だったかもしれません。

閉店間近

曼荼羅寺を後にして、国道十一号線を少し歩いて、遍路道は右にそれます。山に入った途端、倒れた竹が遍路道を覆っていました。十日ほど前の雪

で倒れたもののようにでした。
 竹林を抜け、山を回り込んでいくと、仁王門手前の「俳句茶屋」という茶店に辿りつきます。寒中でもあり、時刻も4時過ぎ、そろそろ店じまいの時間でしょう、雨戸の中からテレビの音だけが聞こえています。こんなところで、甘酒なんかあったら最高だなあと思っていたら、鈴の音に気づいてご主人が出てきて、甘酒ならぬお茶をご馳走してくれました。ぞくぞくと辿りつく私たちの団体に、あわてて湯呑を



竹が道をふさいでいる遍路道を通る。



石段だけでなく、百段の鉄の階段もあります。

取りにいったり、陳列棚の戸を開けたりと、さっきまでの静かさが嘘のようになりしました。
 仁王門前に辿りついたとはいえ、俳句茶屋から石段を三七〇段登ったところに大師堂、さらに一七〇段登って本堂と、気を抜けません。本堂をお参りして、靴を脱いで大師堂に入ると、「五時で閉めます。」と、ようやく着いたのにつれないお言葉。あわててお参りを済ませて、再び石段を下ることになりました。
 幸い、今日の宿はお寺の目の前にある、「ふれあいパークみの」。大きなお風呂で、一日目の疲れを、少しだけとることができました。

■■■ 1日目のデータ



大地蔵と乳薬師

二日目は、一日目に歩いた国道十一号の分岐まで、山を抜けて戻ります。

高速道路をくぐったところの池のほとりに、大きな石のお地藏さんが立っています。



【右下写真】昔、弥谷寺に奉納しようと思ったところ、大きすぎたため山道、私たちが歩いた遍路道、を運びきれずにこの地に建てられたと言われています。台座を含めて、四・九mもの高さがあります。確かに、あの道を運ぶのは無理だろうと、歩いた者には実感できます。



七仏寺の石碑

一旦、国道まで出てから旧道に入ると、左手にお堂が見えます。番外札所の七仏寺です。弘法大師が彫った七仏薬師を祀ったといわれ、今は乳薬師として知られています。大地蔵とい、乳薬師とい、古くからの道であることを

教えてくれますが、これも歩きならではの発見です。下ばかり見えていて気づかなかったでしょうか。

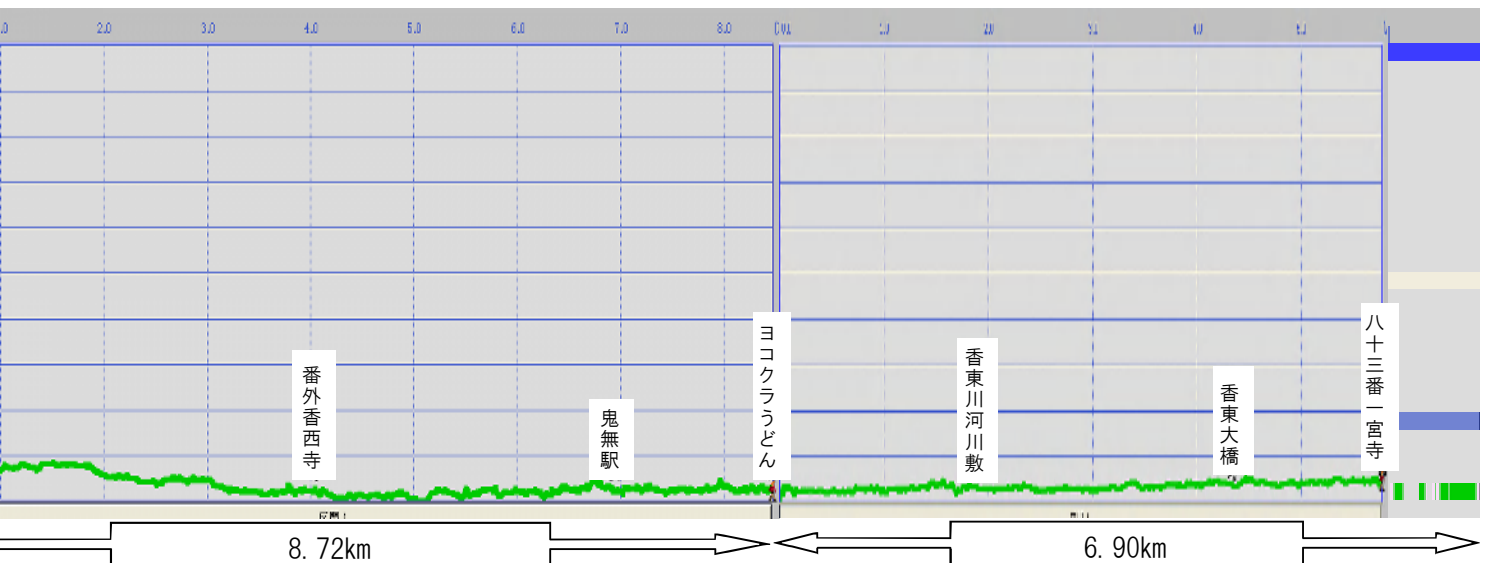
歩き遍路の嗅覚

七十八番郷照寺門前の名物「地藏餅」を食べて、ここからは各自歩くことにしました。坂出の長い長いシャッター通り商店街を抜けて、ほぼ一本道ですから、一人での歩き遍路を疑似体験するのにうってつけです。集合地点は「八十場の水」と言ったものの、「八十場の水」に到着したのは四名のみ。さては、坂出の市街地を抜けたところの道しるべを見落としたようです。途中で、道を聞いたらしいのですが、「八十場」と聞いたために、「八十場駅」を教えてくださいました。それでも、七十九番には全員無事顔をそろえることができて、ほっとしました。

「八十場の『水』」との伝え方が悪かったのかもしれませんが、歩き遍路には、道しるべを見落とさない嗅覚のようなものが欠かせません。これを見逃すと、あらぬ方向に歩くことになり、逃すと、へたをすると迷子になることだってあります。

「人生即遍路」。遍路だけでなく、

■■■ 2日目のデータ



人生も道しるべを見失ったら大変です。お経の中にも、「一切の邪魔外道には帰依せざるべし。」と戒めてあります。

これからも、ときどき先達を外れて、各自歩いてもらうことにするのもいいかもしれません。道しるべを探す嗅覚を身につけるために・・・。

再びの雪道

目の前に迫った五色台に向けて、急な階段を上って、県道と交差する一本松まで、きついこと、きついこと。五色台と言うだけあって、一本松から先は台の上の平坦な道でしたが、うっそうとした森の中、北側には残雪が残りました。2巡目では何回目の雪道でしょうか。1順目では記憶にないのですが・・・。

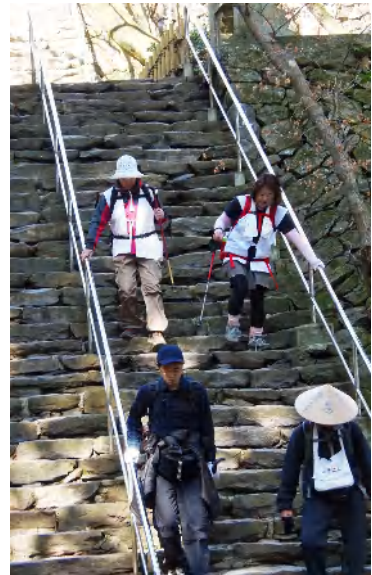


標高四〇〇mぐらいなのですが、道には残雪。

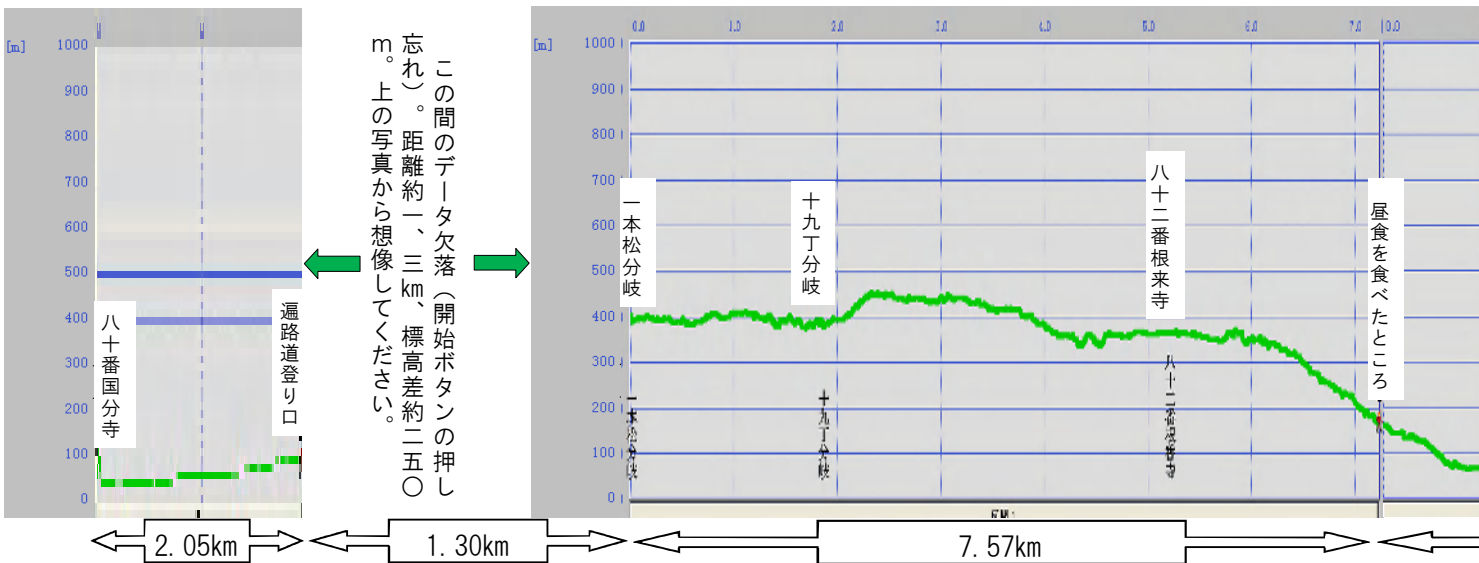
冷たくて大変でしょうとよく言われますが、凍っていない方がわらじに水が浸み込んでこなくて楽って知ってました？

登りがいいか、下りがいいか。

十九丁の分岐から山中を抜け、舗装道路の県道をしばらく歩き、右に見落としそうな入り口から遍路道に分け入って、少し下るといきなり根香寺の山門前に出ます。ようやく着いたと思ったら、山門をくぐって石段を下り、今度は石段を登って、右に大師堂、本堂はさらに登ったところがあり、登り下りしてやっとお参りできるといった感じです。



下りの石段も結構きつい。



次の札所までの長丁場ですが、目先の楽な方を選んだのが、吉と出るか凶と出るかは、あとのお楽しみといったところですよ。

昼飯？ 今でしよ！

根香寺から下り始めは、結構な下り坂。それでも古くからの道らしく、かつては整備されていたように感じられました。イノシン防柵から人里に入ったところで、11時。朝にコンビニで昼食を買い求めていたものの、あと一時間ぐらい歩けば、うどんやさんに着けると思い、またまた皆さんに選択をしてもらいました。答えは、せっかく買ったし荷物も軽くしたいし、ということでベンチだけの休憩所や畑の縁で昼食となりました。ようやく三日目の山も終わり、天気は最高、はるか眼下には瀬戸内の海と小島という、心も



瀬戸内の海を眺めながらの昼食。

景色も最高の昼食でした。後、遍路道は東に東に向かい、十三番へは南下しなければならぬのに、だいぶ迂回するような感じでした。これが、根香寺からの道で楽な方を選んだ結果でした。あそこで少し我慢して登りの道を選べば、八十三番へはほぼ直線のルートを通れたのです。とはいうものの戻ることでもできませんから、この道を行くしかありません。「人生即遍路」、過去のことを悔やんでもどうすることもできませんから。別格霊場の香西寺を過ぎると、幹線道路をしばらく歩くことになりました。鬼無の駅から遍路道は左に入っていきます。鬼無の集落に「ヨコクラうどん」といううどん屋さんがあり、ここ



だんだん海が近くに見えてきます。

で小休止ということにして、おやつとうどんということにしました。ふたたび、根香寺での選択ですが、あそこで登りのルートを通ると、「ヨコクラうどん」にはお昼少し過ぎの到着となり、たぶんうどんを食べようということにはならなかったはずで、あそこで下りのルートを通ったおかげで、おいしいうどんにありつけたわけです。「人生即遍路」、その時その時の選択や判断が、あとで考えればベストになるのだと、「ヨコクラうどん」が教えてくれました。

香東川の長い河川敷を、少年サッカーの大会を横目に見ながら歩いて、ほどなく八十三番一宮寺。

空港リムジンの一宮バス停から、満員のバスを2台乗り過ごし、ようやく3台目のバスに乗って帰路に着きました。



第13回のあしあと

第13回				平成26年2月21日～23日								
期日	曜日	コ	ー	ス	予	定	食事・宿泊					
1	2月21日	金	各自羽田空港到着、チェックイン	7:55発	JAL1403	9:20着	高松空港	【歩いた距離】約14.6km				
			琴空バス	10:19着	羽田空港	10:46発	JR土讃線	10:51着	善通寺駅	11:00発		
			一徒歩	11:20着	JR琴平駅	11:45発	岡山行き	徒歩	12:10発	昼食:「大師うどんきむら」		
			約1.5km	75番善通寺	約0.3km	大師うどんきむらで昼食						
			一徒歩	14:00着	捨身ヶ嶽禅定	14:15発	約2.0km	73番出釈迦寺	14:50着	15:10発		
			約5.9km	72番曼荼羅寺	約3.1km	「俳句茶屋」	16:20着	16:30発				
			一徒歩	15:15着	71番弥谷寺	17:00発	約0.5km	ふれあいパークみの泊				
			約1.0km	16:40着	8:00発	一徒歩	9:10着	9:30発	一徒歩	【歩いた距離】約21.7km		
2	2月22日	土	10:05着	10:45発	「香の香」	昼食	一徒歩	11:50着	12:15発	昼食:「香の香」		
			約4.8km	76番金倉寺	約3.9km	77番道隆寺						
			一徒歩	12:31発	多度津駅	JR予讃線	12:40着	宇多津駅	一徒歩	13:00着	13:00着	普通寺市金蔵寺町1180
			約1.0km	78番郷照寺	約5.9km	79番高照院	15:15発	送迎バス	15:30着	15:30着	【歩いた距離】約25.4km	
			13:30発	一徒歩	15:05着	16:05着	16:30発	一徒歩	16:45着	16:45着	【歩いた距離】約25.4km	
			約0.8km	81番白蓮寺	約0.8km	かんぼの宿坂出						
			一徒歩	8:00発	送迎バス	8:35着	80番国分寺	9:05発	一徒歩	約3.4km		
			3	2月23日	日	朝食	かんぼの宿坂出	10:30着	19丁分岐	10:45発	一徒歩	11:15着
一本松	約2.2km	82番根香寺				12:30発	一徒歩	13:20着	13:30発	13:30着	【歩いた距離】約25.4km	
11:45発	一徒歩	12:30着				14:25着	14:55発	一徒歩	16:05着	16:25着	【歩いた距離】約25.4km	
約3.0km	82番根香寺	約4.0km				香西寺						
一徒歩	14:25着	14:55発				16:35着	16:45発	一徒歩	17:00着	19:05着	【歩いた距離】約25.4km	
約4.0km	ヨコクラうどん	約5.7km				83番一宮寺						
一徒歩	16:35着	16:45発				空港リムジン	17:00着	高松空港				
約0.9km	空港通り一宮バス停	20:15着				羽田空港						
JAL1414												



2

第14回

四国あるき遍路の旅

約20名

参加者募集

【申込】お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。

【参加費】約五、六万円を予定

【日程】十一月十四日(金)～十六日(日)

【旅程】飛行機にて高松へ。電車を乗り継ぎ八十四番・八十五番・八十六番・八十七番まで参拝。八十七番門前の遍路宿泊。二日目、八十八番大窪寺で結願ね歩いて温泉泊。三日目は、四国総奥の院参拝後、大坂峠を越えて徳島に入り、三番札所参拝後、徳島空港から帰路。三日間で約五十八kmを歩く予定。

十四回は、八十八番までたどり着き、結願となります。その後、三番札所に戻ってお礼まいりを始めます。お礼まいりは、徳島から高野山・大本山妙心寺とお参りする予定ですが、これらは第十五回になると思っています。



駒形大仏



寺から半里

～わが町かど探索～

園生町 熊倉 浩

連

巻

その3

駒形観音堂と駒形大仏

天気は持ちそうである。今日は出直して駒形観音堂（仏母山駒形観世音）を訪ねることにする。「駒形大仏」のほうを通りはいい。前述の北高校脇の馬頭観世音がこの観音堂の奥の院となる。ここは大巖寺（生実）の末寺である。ここは大巖寺（生実）の末寺である。大きなお堂である。賽銭箱の窓からのぞき暗さに慣れてくると須弥壇には本尊が祀られている見事な厨子が見えてきた。カメラの感度とフラッシュの出力を上げて狭い穴から一枚撮る。

駒形大仏（千葉市指定文化財）はお堂に向かって右手にある。この仏様は銅製の阿弥陀如来坐像（異説もある）で、元禄十六年（一七〇三）の铸造とある。いいお顔だちで何度来て見てもほ



駒形観音堂内の厨子

れはれする。像高が二、四mで以前は露座のお姿であったが今は覆屋におさまっている。長沼の新田開発を請け負った江戸の野田源内が願主となり大巖寺の然誉上人により開眼供養がなされ、あわせて馬頭観音堂を開いた。鋳物師は江戸浅草の橋本伊左衛門重広。大仏の背には寄進した近在六十ヶ村の信者名や講中の名がぎっしり刻まれている。大仏の隣に幼な児を抱いた子安観音像が二十体ほど並んでいる。子安様と書いてあった。ここにも乳を飲ませていた観音様が一体あった。かつて町にも村の辻々にも田圃の畔にも小安観音、地藏菩薩、馬頭観音などの石仏が見られたが今は寺社など一か所に集められてしまった。その多くは波乱の江

子安観音



野田市の延命地蔵尊が江戸川近くにありその絵馬堂を訪ねた折、野田市文化財に最近指定された絵馬を見ることができた。今まさに産声を上げた赤子を産婦が捻りつづす絵である。毎月

戸末期から明治にかけての石仏である。北総地区は子安観音信仰が特に厚く観音像は子安講の女衆によって守られている。いくつかの理由が考えられるがその一つは云うまでもなく女の大役である出産の無事と赤子のすこやかな成長を祈ることに外ならない。もう一つは幕府の圧政による生活苦である。間引きが暗黙のうちに広く行われていた。生まれながらに絶たれた命の霊を弔うためである。いまも子安観音信仰が盛んであることをどう考えたらいいだろうか。

千葉市近在の某村だが江戸末期から大正期まで人口の増減が殆ど無しという調査資料がある。他の村々もそうだったのではなからうか。

の縁日には多くの参拝者が見えるとのことであった。このような絵馬や掛け軸が県内に多く現存するということが物だけ表には出てこない。

さて大仏様の隣には江戸半ばから続く豪農島田家の屋敷があった。この地方には珍しく大きな長屋門を構えた長沼新田の名主である。生活の場である母家その他の建屋内は非公開であったが屋敷内は自由に見学させてもらった。駒形大仏とセットで見学コースに入っていたが、今、姿も形も見当たらない。マンションと小公園に化けてしまった。記憶では長屋門は千葉市文化財ではなかったかと思っている(未確認)。市民の間で惜しむ声が上がったが後の祭りであった。これも時代か。

御成街道

おなりかいどう

駒形大仏の前の通りが御成街道・県道六十九号である。徳川家康が鷹狩りで東金へ行くため一夜で造らせた(まさか)という伝説が残っている。家康の命による夜通しの突貫工事なので一



島田家の屋敷跡

夜街道とも提灯道路とも呼ばれた。モノレール千城台駅を降り街道を東金方面に行くと、間もなく一夜塚とか提灯塚という塚が残っている。測量のための塚といわれるがごく短期間で造ったことは確かだろう。ではなぜ造られたのか。単に鷹狩りのためとは考えにくい。史家が語るには戦国の世が治まったばかりでまだ雲行きがややしく、いざというとき軍隊を早く移動させるため直線道路が必要だったという説である。

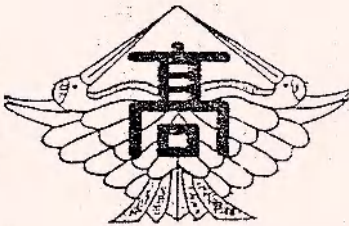
船橋御殿(現東照宮)から東金御殿(現東金高校)までの三十七km、ほぼ直線道路である。起点と経由に諸説あり四十kmとも四十二kmともいわれるが、所々、例えば若松町の陸上自衛隊下志津駐屯地(旧陸軍下志津飛行場)による分断や、八街市のこれも軍用地にされ一部消滅したなど以外は、現在もほぼそのまま残っている歴史の道である。

十六年年間に三代の将軍が十一回利用している。うち家康は初めの二回慶長十九年(一六一四)と元和元年(一六一五)に東金に来ている。鷹狩りは

戦争に備えて軍隊の強化訓練とも言われるが、それだけでなくレクリエーションと実利的な狩りそのものでもあった。獲物は何かというと半島中部から東総に多く生息している真鶴が主であった。將軍の権威を誇示し、諸藩との絆を強めるため、年賀に登城した大名連に鶴の肉の吸い物を振る舞ったという。

因みに小湊線に上総鶴舞という駅がある。幕末から明治にかけての僅か数年間だが移封された鶴舞藩がおかれた町である。千葉県には「鶴」がつく地名が実に多い。鶴が多く生息していたからだと専門家はいう。「鶴舞」が七十ヶ所、「鶴巻・鶴牧」が三十八ヶ所も確認されているのは面白い。鶴舞商業高校や大多喜高校の校章は羽を広げた鶴のデザインであるのはご承知の通り。

道路は軍事目的であるから山を越え谷をわたったの一直線である。通ると分かるようにアップダウンが激しい。だから旅や交易には向いていなかった。將軍が利用した以後は船橋・東金間をフルコースで利用すること



大多喜高の校章



鶴舞商高の校章

は希であったという。

軍事の緊急性のほどはわからないが、工事のためにかりだされた沿道の百余ヶ村こそ迷惑だった。工事区間と工費が割り当てられて村々が泣いたことは歴史の表に出てこない。慶長十九年（一六一四）の「新道作帳」に村名・名主名・工事距離・負担金が載っているが細かい話になるので割愛する。

余談を一つ。平成の世、健康づくりの歩け歩けが盛んである。私の知人に御成街道四十kmを五時間四十分で歩き抜いた豪傑がいる。沿道を見学したり歴史・民俗・自然を調べながらの街道歩きは実に楽しいもので、御成街道にはそんな宝が一杯満ち溢れているのに、この韋駄天男は走るが如く、そして飛ぶ如く、何を見、何を考えて歩いたのだろうか。

ほかならぬ私も歩き通したいの思いでね昔船橋東照宮からスタートし半日かかって実初まで辿りついた。僅か五分の一だったが貴重な資料を得ることができた。街道を車で通ったことはあるが、実初からの続きを何時の日にか歩きたいと思っている。



庄内から来た仁兵衛の墓

異境の地に眠る人夫の墓・花見川

長沼まで来たので国道十六号線をちよつと北上しよう。またまた寺から半里を越えるがお許し願いたい。

横戸町は千葉市の北限で八千代市と境する。花見川を挟んで柏井町と向き合っている。教えてもらった通りにその墓地はすぐ見つかった。いろいろな都合で何度か移動させられたらしいやや小ぶりの墓石には『庄内大服部村百姓にへえのはか』
 『仁兵衛墓』とある。右側面には『これ印旛沼堀筋御普請御手伝人夫の墓なり』
 (一八四三年)
 天保十四年七月十三日羽州庄内を出て同九月二日 続けて左側面に『十四日病死して爰に葬る 後の人 隣れみてこれを発くことなかれ 法名』

観阿道哲信士』。刻まれた字は苔むし崩れた箇所もあつて判読に時間がかかった。

千葉に向う電車が幕張を発つとすぐ流れているのか淀んでいるのか分からない川を渡る。花見川である。この上流に横戸町や柏井町がある。

このリバーサイドは、朝夕サイクリングやウォーキングで賑わい、春、両岸に続く桜はちよつとした見ものである。しかし花見川が人工の川だとは多くの人は知らないようだ。現在の姿に至るまでの道程は実に長い。

国道十六号線を北上、京成本線を跨ぐあたりに来ると左手にダムが見える。水資源機構の大和田揚水機場である。実はここで上流と下流に水位差があり水量をポンプで常時調整し、東京湾河口の水位を一定に保っている。こ

こを境に上流を新川しんかわ（印旛疏水路）と呼び下流を花見川という。印旛沼から流れ来る水が増えればダムで堰止められ川幅も広がる。あふれた水は上流の堀の内から北に分かれる神崎川へと逃げる。バッ



ダム上流の新川は川幅が広い。

ファアの機能である。そのような時は、概して平常でも花見川より広い新川は、大河の様相を呈し湖と見まごうほどになる。

工事の計画は元禄時代に始まる。印旛沼の水を東京湾に流すためであつて、①利根川氾濫の被害対策、②水位を下げて新田の開発、③利根川と江戸湾を結ぶ水運の確立が目的であつた。最初の元禄期計画の詳細はよくわかつておらず、享保九年（一七二四）の着工では資金不足で中断する。第二次の明和・天明期では柏井附近の難工事と利根川の大洪水、そして老中田沼意次の失脚で中止となる。柏井の辺は分水嶺であつて南北に分かれる場所である。

第三次計画は天保期（一八三〇～一八四三）に入つて水野忠邦によつてなされる。全工区を五区分し五藩に責任と経費を分担させた。庄内（出羽）、鳥取（因幡）、秋月（筑前）、沼津（駿河）、貝淵（上総）の各藩である。既に幕府は疲弊困憊の態、計画を立てても遂行能力なく五藩に負担させたのである。なぜこの五藩が選ばれたか謎は深い。俗説にしたがつて幕府から睨まれた藩だったとしておこつ。幕命を受けた藩こそ大迷惑である。



過酷な労働の様子
（市史編集委員「天保期の印旛沼掘割普請」より引用）

下手すると潰れかねないほどの財政負担である。最大の難工事は分水嶺に当たる花島～柏井あたりで、ここが庄内藩が担当することになった。各藩主は国元で人夫を集め、彼らは鋤や鍬、生活用具一切を担いで遠路やってきた。庄内藩からは千四百六十名が歩いてきた。現場に着いてみると過酷な労働と劣悪な環境さらに不味い食事、吹き込む雨で小屋の中で傘をさす状況。ムカデ、蟻が多くて毎晩かまれる。朝四時起き、六時から十時間

労働という生活が続いた。栄養状態が極度に悪く病人や死者が続出するのは当然であった。

花島観音の分水嶺は粘土質の化土けとといつて最悪の地質、掘っても掘っても崩れてしまう。掘った土は流れてしまふ。工事はさっぱり進捗しない。

村上（八千代市）の郷土博物館で私は愕然とした。各藩とも大変な犠牲を強いられるが、庄内藩の或る村から来た人足二八三人中一九二人が病にたおれ、七人が死亡している。仁兵衛さんはわずか二ヶ月もたたないで亡くなっている。このようにして故郷を離れ、異境の地で命を落とした人夫を、この土地の人は懇ろに弔ったのである。ここにあげた百姓仁兵衛は一例に過ぎないが、そのような墓が横戸町・柏井町には幾つも残っている。いつか機会があったら訪ねてみたい。

他の藩も難渋しながら工事に当たったが、全九割ほど進んだところでまともや中止となる。難工事でこれ以上の進捗が望めないこと、各藩の疲労も極度に達したこともあるが、何よりも計画の立役者だった老中水野忠邦（天保期）の失脚であった。幕府の失政と云わずして何であろうか。その後、工事は明治政府に引き継が

れる。大正・昭和へと計画は進められたが完成するに至らず長い戦争の時代に入ってしまう。戦後は建設省（現国土交通省）によって再開され、近代的な新技術と土木機械を駆使してようやく完成を見た。実に三百年後の昭和四十四（一九六九）年であった。新川（印旛疏水路）の距離は十七・三kmに及び、印旛沼の干拓と相俟って九〇〇ヘクタールの農地が生まれた。

ところが完成してみると印旛沼の水利用価値が変わった。沼周辺の人口が急増し飲料水の確保が高まり、また工業用水の需要が出てきた。と同時に稲作を抑制する時代になる。東京湾に流す必要がなければならぬか、逆に貯水しなければならぬか、昭和・平成の失政であろう。参考までに古地図をご覧いただきたい。印旛郡と千葉郡の境界線（黒線）の左側にあつて東京湾にそそぐ花見川と北上する新川は繋がっていないのがわかる。

ここが分水嶺で柏井辺りである。細い二つの川は高度も違いそれぞれが南北に分かれて流れていた。（次号につづく。）



花見川と新川が分水嶺で分かれていることがわかる古地図

寺の事件簿



第38回花園会ゴルフ大会

5月21日 於：千葉廣濟堂カントリー倶楽部

第三十八回大会は参加者十五名、あいにくの雨模様の中、スコアを見ると、誰もが集中力を欠いたようでした。そんな状況の中、住職が奇跡的な優勝を遂げ、雨海さんの大会三連覇を阻止しました。住職の優勝は、寺の事件簿に該当する事件です。坐禅をしているから集中力があるのか、四国歩き遍路で雨の中を苦しめないのか、ただ単にハンディに恵まれたのか、ご想像にお任せします。

住職の優勝はさることながら、悪条件の中でもスコアをまとめてくる矢野さんは、さすがとしか言いようがありませんでした。上位成績は表の通りです。

今回のチャリティは九千百三十三円でした。参加者が少ない分、少額になってしまいましたので、次回は、たくさんの方の参加をお待ちしています。チャリティは、「あしなが育英会、東日本大震災・津波遺児支援」に寄付させていただきます。

		グロス	ハンディ	ネット
優勝	宮田 宗格	102	31.2	70.8
準優勝	関山 秀人	97	24	73
3位	矢野 弘明	92	18	74
4位	神山 孝夫	99	22.8	76.2
5位	福田 雅男	97	20.4	76.6

平成25年度花園会会計報告

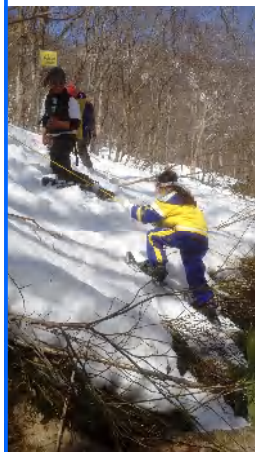
平成25年4月1日～平成26年3月31日

	科目	金額	備考
歳入	前年度繰越金	140,648	
	お寺より活動費	1,665,000	
	行事収入	2,116,260	年越し参り、地蔵盆・禅童会・土曜会・新年会・写経会・ご詠歌などの参加費を含む
	雑収入	10,103	東京教区7部からの法話会助成金及び預金決算利息
	歳入合計	¥3,932,011	
歳出	宗派賦課金	174,500	本山納付花園会費、災害見舞金ほか
	行事費	2,603,760	年越し参り・地蔵盆・禅童会・土曜会・写経会・ご詠歌ほか
	事務費	422,297	事務経費、行事案内状の印刷費、郵送料など
	会議費	160,550	月例役員会
	研修費	415,467	役員研修及び梵鐘鑄込み式に参加
	慶弔費	0	
	寄付金	0	
	雑費	0	
	歳出合計	¥3,776,574	
剰余金	¥155,437	剰余金 ¥155,437は次年度繰越金としました。	

平成二十六年上四半期
お寺と和尚の記録抄

31日	29日			26日	5月25日	23日	22日	21日	17日	12日	11日	9日		5月8日	26日	24日	22日	18日	11日	9日	10日	4月6日
幼稚園、市原ボランテニア「Q園隊」	スマートコミュニティ、「写経会」	幼稚園、年中組市原たんけん隊	市原別院耕雲寺鐘楼上棟式	平林寺放牛窟老大師密葬	平林寺放牛窟老大師通夜	幼稚園、補助金ヒアリング	スマートコミュニティ、「写経会」	第三十八回花園会ゴルフ大会	土曜会「市原ボランテラ」	千葉市幼稚園協会稲毛ブロック会	写経会	幼稚園、年長組市原たんけん隊	幼稚園、「花まつり」	スマートコミュニティ、「写経会」	幼稚園、市原ボランテニア「Q園隊」	スマートコミュニティ、「写経会」	湯島麟祥院、晋山式	取手長禅寺、観音まつり	竜波禅士垂示式、於妙心寺	幼稚園、入園式	スマートコミュニティ、「写経会」	写経会

3月28日~3月30日



														7月5日	29日	26日	22日	18日	14日	12日	11日	9日	6月1日
														山門施餓鬼	写経会	初盆・新入檀信徒施餓鬼	スマートコミュニティ、「写経会」	根岸円光寺施餓鬼会、法話	スマートコミュニティ、「写経会」	幼稚園、決算監査	平林寺放牛窟老大師三七忌	幼稚園、年少組市原たんけん隊	写経会

三日見ぬ間の・・・

(4月の「園だより」から)

家庭から、子どもたちがたくさ
んいる幼稚園という環境に足を踏
み入れたり、クラス替えという環
境の変化があったりと、新年度を
迎えました。

子どもたちが四季折々に活動に
出かけるネイチャーランドに、昨
年度は、年長の子もたちとの忍
者屋敷作りで、よく出かけまし
た。忍者屋敷作りの活動が無事終
わり、しばらくくご無沙汰でした。

先日行ってみると、梅の木は若葉
を伸ばし、その下はたんぽぽの
じゅうたんのようです。桜も満開
となり、原っぱは踊子草やホトケ
ノザでいっぱいです。忍者屋敷活
動の佳境の頃、子どもたちと出か
けた時にはモノトーン
の世界だったのが、今
では春爛漫といったと



ころです。

春爛漫を演出し
ているのは、花々
はもちろん、草木
の若葉たちです。
雑木林の木々も

白っぽい若葉を芽吹かせています
が、あっといいう間に濃い緑に変
わっていくんですよ。

ことわざに、「世の中は三日見
ぬ間の桜かな」というのがありま
す。桜の花はあっといいう間に散っ
てしまうのにかけて、世の中の移
り変わりが早いことを言っていま
す。身の回りをみると、桜だけで
なく雑木の葉っぱも、幼稚園入口
のアケビのつるも、三日見ぬ間の
成長には目を見張ります。

子どもたちの成長もまた、春の
花や若葉、つるに負けないぐらい
のスピードです。あっといいう間に
園服が小さくなったり、たくさん
の言葉を覚えたり、お茶のお作法

だって、月一回にも関わらず、
よく覚えます。そんな子どもた
ちの成長を、三日見ぬ間なんて言
わないで、毎日毎日、目にしてく
ださい。決して、幼稚園に入園さ
せたから、あとは幼稚園にお任せ
なんて言わないでください。

ただし、あまり手や口を出さな
いこと。若葉が傷みやすいのと同
じで、この時期の子どもたちにあ
まり手を出したり、口を出したり
すると、大人にやってもらって当
たり前とだったり、大人の指示待
ちの子どもになってしまいます。
せいぜい親は子どもの応援団と心
得て、ほめたり励ましたりする程
度でいいのではないのでしょうか。

基本は、見る、見守るに
とだと思えます。

今年度も、皆様と共

に、子どもたちの成長を見守って
まいりたいと思います。どうぞ、
よろしく願います。





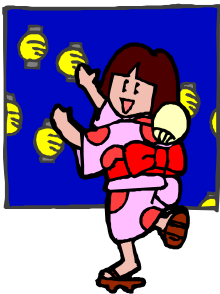
子どもたちのお盆

地蔵盆のご案内



8月23日(土)

午後5時	供養受付(本堂にて)
5時半	水子・ペット・人形供養
6時	御霊送り
8時	模擬店閉店・地蔵盆終了



お申込下さい。

*供養料

水子	一霊位	三千元
ペット	一霊	千円
人形	一体	千円

*供養料は当日の受け付けです。

ご供養のご案内

地蔵盆では、水子供養とペットの供養、人形の供養とお焚き上げをしております。供養をなさりたい方は、添付の申込書を送って下さるか、お電話にてお申込下さい。

山岡鉄舟母堂のお地蔵さんにちなんで毎年開催されている「地蔵盆」も今年で第二十二回。
参道の両側に「禅重会」に参加した子どもたちが作った灯籠が飾られ境内のわらべ地蔵たちにお灯明があげて、本堂では、水子供養・ペット・人形の供養。そのお灯明を頂いての「みたま送り」、幼稚園児の盆踊りとなります。

織 暑 御 恩 舞

お品書き

手作り焼きそば、
 炭火やきとり、山
 形産玉こんにゃ
 ク、昔なつかしの
 駄菓子 かき氷 冷
 たいまビール、
 ジュース、こころ
 じずかに野点の一
 服、その他